

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府・京都市 】

学校名【 京都市立嵐山東小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	4・5・6年生 167名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・スポーツ選手等を招いた講演や競技体験を通してオリンピックやパラリンピックについて知るとともに、障害のある人に対する理解を深めることができるようにする。
5 取組内容	① アテネ・北京パラリンピックの水泳に出場された「北村友里選手」の公演を聞かせて頂いた。   ② シドニー・北京パラリンピック車椅子バスケットボール日本代表強化コーチと車椅子バスケット選手2名が来校され、ご講演と競技体験を行いました。  

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子バスケットボール選手の話聞いて「しんどいことにも頑張って挑戦してみたいと思った。」「車椅子バスケの友達がいたからいろいろな挑戦ができたことを知った。」「何があっても頑張って生きようとする大切さを知った。」「下半身が動かないなんてすごくつらいと思う。みんなと笑い合えるってすごいと思う。」「どんなことがあってもめげずに頑張ることを学んだ。」</li> <li>・車椅子に乗ってみて「車椅子の操作が難しかった。」「車椅子に乗ってボールを投げることはとても難しい。」「車椅子で右・左に回るのも難しい。」「車椅子に乗る選手は身近で見ると迫力があって凄いと感じた。」</li> </ul> <p>○児童は講演や体験を通して前向きに生きることや諦めないことの大切さを学んでいた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童にオリンピックパラリンピック事業に参加させたかった為、2学年合同で密を避けながら体育館で開催した。一度に多くの児童が参加すると体験学習では実際に活動する時間が少なくなる。今後は開催単位を検討し、回数を増やし少人数で行うようにしていきたい。</li> <li>・講師の方と事前の打ち合わせを(電話、メール)細かく行った。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初、各学年の年間計画にこの事業を組み込んでいけるように、早めに取り組みを進めたい。</li> <li>・講師に対する謝礼(報償費)額が低い。</li> <li>・この事業を継続してほしい。</li> <li>・コロナ禍で多くの規制の中での実施となった。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4・5・6年で系統立て事業内容を決めて取り組んでいきたい。</li> <li>・教科学習や総合的な学習と関連付けて年間計画にはめ込んでいきたい。</li> <li>・前年度には申請する事業内容を検討し決めておきたい。</li> </ul>